

# 質 問

## 東京でのたたらシンポジウム 開催の意義は

若月忠男 議員

**町長** 地域の宝であるたたらを  
全国的に発信します



**問** 東京で開催される、たたらシンポジウムに、地元からの参加人数と、参加者への経費負担は、

**答** 東京での開催目的は、たたら製鉄を保全する意味や価値を、シンポジウムやたたら体験を通して認識を高めて、遺構調査などを広域的に進める気運を全国的に盛り上げたと言っています。また、たたら製鉄が人間との生活活動と自然との共生あるいは環境に配慮した生産過程を持っている点など、新たな意義を見出し、その実例として日本の中

心である東京の国立科学博物館の鈴木先生の強い意向もあり御指導を頂き、実現するものです。地元参加者の募集やそれらに対する参加助成は考えていません。

**問** 地元からの参加が無いということですが、ビデオ等で撮ったものを、情報テレビで情報発信の考えは。

**答** 地元の皆さんへの情報 テレビでの放映等も当然考えて行きます。また、内容等が紹介できるような印刷物等の作成について検討します。更に同じような内容のものを、地元でもぜひやってほしいという意見も、雲南市・安来市からも聞いておりますので、会場をどこにするかもあります。地元開催についても、今後検討していきたいと思っています。

**問** たたら製鉄体験事業の開催計画と、地元参加者への参加要請指導は。

**答** 今年度は、奥出雲町芸術文化祭にあわせ、横田コミュニティセンター

前の横田児童公園での体験操業を計画しております。これにより多くの町民の皆様が気軽にたたら製鉄を体験・見学していただけると考えています。また、たたら製鉄に裏打ちされた文化的景観や文化遺産についても展示し、本町の製鉄文化の普及啓発を推進して参ります。

**問** 島根県の2市1町の鉄の道文化圏推進協議会の主催ですが、鳥取県日野町・日南町・広島県庄原市・岡山県新見市等の広域圏での開催計画の考えは。

**答** 山陰各地には、たたら製鉄の繁栄を示す数多くの製鉄遺跡が残っています。鳥取県日野町・日南町のたたら里奥日野の事業など各地区でたたらをテーマに町おこしが行われています。博物館や資料館も整備が出来ており、今後は、中国地方のそれぞれの団体との連携・協力体制を図る事は重要と考えています。

**問** 今後の開催計画としては、国内のみでの開催

から西アジア・東アジアの鉄の道として栄えた地での開催計画検討は。

**答** 愛媛大学に東アジア古代鉄研究センターと言う組織も設立されています。このような関係あるところの先生とも連携しながら進めてまいる必要があると思っています。世界的、あるいはアジアを含めた取り組みについては、次の課題として準備を進めていく考えです。

**問** たたらと、奥出雲仁多米ブランドをさらに不動のものにするためにもPR強化が必要では。

**答** 仁多米の食味値がこれだけ高いことは、鉄分が豊富な土壌であると言うことも指摘されております。実は三陸の力キ養殖業者である、畠山さんという大変有名な方で、「鉄は魔法使い」であると説いておられ、鉄と仁多米、あるいは鉄と農作物についての勉強会を来年度おこなっていききたいと思っています。